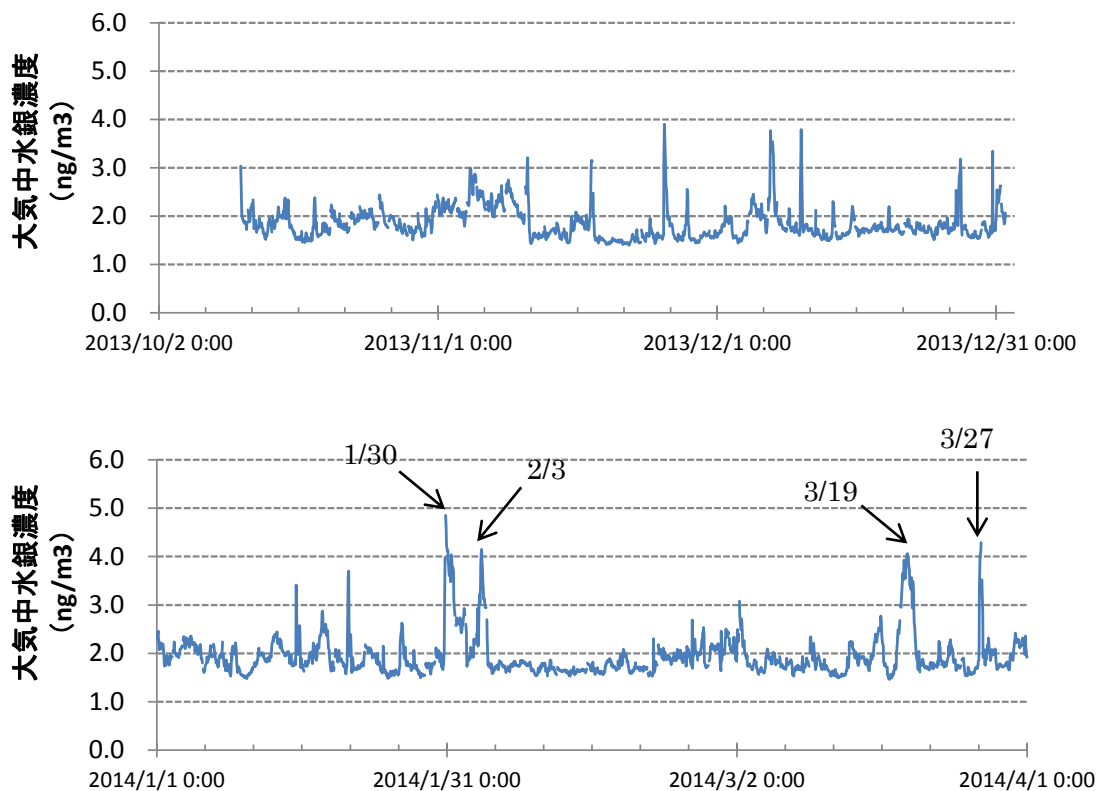


2013年10月1日から2014年3月31日までの大気中水銀の観測結果



観測期間中の水俣市における大気中水銀濃度の平均値は 1.9 ng/m^3 であり、同年度上半期よりはやや高いが、平成 25 年度の日本の全国平均値 2.0 ng/m^3 よりも低い値であった¹⁾。最高濃度は 1/30 の 20 時から 21 時に観測され、その値は 4.9 ng/m^3 であった。なお、9 月 23 日 12 時から 10 月 10 日 18 時までは装置の不調や自動校正器の導入作業のため、欠測となっている。この期間中も濃度が急激に上昇する高濃度イベントが観測されており、濃度が 4.0 ng/m^3 以上となる日が 4 回観測された。これらのイベント時の地上風向に一定の傾向はなく、観測点近くの固定放出源が影響している可能性は低いと考えられる。そこで、それぞれのイベントが起こったときに大気がどこを経由して水俣市に到達していたかを流跡線解析²⁾によって調べると、そのすべてが中国中部から南部を経由していた。そのため、水俣市において大気中水銀濃度が 4.0 ng/m^3 を超えるときは大陸で放出された水銀の長距離輸送による影響を受けている可能性がある。

参考文献

1) 環境省 (2015) 平成 25 年度 大気汚染状況について (有害大気汚染物質モニタリング)

調査結果) . http://www.env.go.jp/air/osen/monitoring/mon_h25/index.html

(Accessed on 1st August, 2015)

- 2) Draxler, R.R. and Rolph, G.D., 2013. HYSPLIT (HYbrid Single-Particle Lagrangian Integrated Trajectory) Model access via NOAA ARL READY Website (<http://ready.arl.noaa.gov/HYSPLIT.php>). NOAA Air Resources Laboratory, Silver Spring, MD.